# 物性物理学 No.8

# 61908697 佐々木良輔

# 問 1

U(R) の極値は

$$\frac{dU(R)}{dR} = -12\varepsilon\sigma^6 \left(\frac{\sigma^6}{R^{13}} - \frac{1}{R^7}\right) = 0$$

$$\therefore R = \pm \sigma$$
(1)

ただし

$$U(\sigma) = -\varepsilon \tag{2}$$

また  $R \to \infty$  では  $U(R) \to 0, \, R \to 0$  では  $U(R) \to \infty$  なのでポテンシャルは図 1 のような形になる.

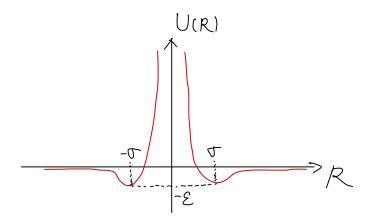


図1 ポテンシャルの概形

### 問 2

図 2 のように面心立方格子の単位格子を考えると、青い原子の周りの赤い原子が最近接である。 これは (1/2,1/2,0) にある原子であるので

$$N_1 =_3 C_1 \times 2^2 = 12 \tag{3}$$

となる.

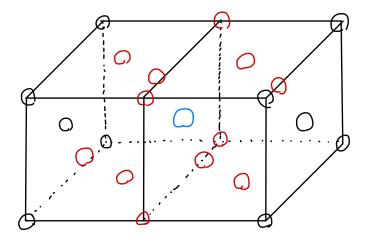


図 2 面心立方格子の配位数

### 問3

第2 近接原子は(1,0,0) にある原子であるので、その数は

$$N_2 =_3 C_1 \times 2 = 6 \tag{4}$$

また  $\sqrt{(a/2)^2 + (a/2)^2 + 0^2} = a/\sqrt{2} = R$  としたので、

$$R_2 = \sqrt{a^2 + 0^2 + 0^2} = a = \sqrt{2}R\tag{5}$$

となる.

### 問 4

第3 近接原子は(1,1/2,1/2) にある原子であるので、その数は

$$N_3 =_3 C_1 \times 2^3 = 24 \tag{6}$$

またその距離は

$$R_3 = \sqrt{1^2 + \left(\frac{1}{2}\right)^2 + \left(\frac{1}{2}\right)^2} a = \sqrt{\frac{3}{2}} a = \sqrt{3}R \tag{7}$$

となる.

# 問 5

(2) 式の第1項について

$$\sum_{j \neq i} \frac{\sigma^{12}}{R_{ij}^{12}} = \sigma^{12} \left( 12 \frac{1}{R^{12}} + 6 \frac{1}{(\sqrt{2}R)^{12}} + 24 \frac{1}{(\sqrt{3}R)^{12}} \right) 
\simeq 12.13 \frac{\sigma^{12}}{R^{12}}$$
(8)

また第2項について

$$\sum_{j \neq i} \frac{\sigma^6}{R_{ij}^6} = \sigma^6 \left( 12 \frac{1}{R^6} + 6 \frac{1}{(\sqrt{2}R)^6} + 24 \frac{1}{(\sqrt{3}R)^6} \right) 
\simeq 13.64 \frac{\sigma^6}{R^6}$$
(9)

となる.

問 6

問1と同様に極値を求めると

$$\frac{dU_S(R)}{dR} = -12 \frac{N \varepsilon \sigma^6}{2} \left( A_{12} \frac{\sigma^6}{R^{13}} - A_6 \frac{1}{R^7} \right) = 0$$

$$\therefore R = \pm \left( \frac{A_{12}}{A_6} \right)^{1/6} \sigma \simeq \pm 0.9806\sigma \tag{10}$$

また  $U_S(R)$  の極値は

$$U_S(R) = \frac{N\varepsilon}{2} \left( A_{12} \left( \frac{A_6}{A_{12}} \right)^2 - 2A_6 \left( \frac{A_6}{A_{12}} \right)^1 \right)$$

$$= -\frac{N\varepsilon}{2} \left( \frac{A_6^2}{A_{12}} \right) \simeq -7.669N\varepsilon$$
(11)

問 7

もっともポテンシャルが低い状態が実現するならば (10) 式から相互作用下での R は希ガス原子対に比べて小さいことがわかる.